



小池 光選

久しぶりに読書の愉しさよみがへる乱歩を読めば少年のわれ
稲城市 山口 佳紀

【評】少年時代に熱中して読んだ江戸川乱歩だが、この年になっても読み出せば止まらない。まるですっかりあの頃のじぶんに戻ったかのよう。これぞ文学の力である。

「サンタさんに手紙を書けはいんだよ」孫の提案 八十路の我に 東京都 新井よね子

【評】いくつくりの孫だろう。なんとも可愛らしいことを言う。サンタさんに手紙を書けばなんでもしてくれる。おばあちゃんの痛いところだって、きつと直してくれるよ。

数週間会へさるうちに中一の女孫はわれの身の丈を越ゆ 藤枝市 北泊あけみ

【評】この時期のこどもの成長はものすごい勢い。わずかに数週間でおばあちゃんの背丈を越した。よこびでもありショックでもある。

捨て猫を拾ってあげる心地にて半額商品かごに入れたり 秩父市 高橋 秀文

この人あそここの人もいなくなり散歩の道に咲くアカマンマ 浜松市 藤田 亜耶

中二なる孫の来たりて宿題に詠みし短歌を聞かせられたり 西条市 山本美知子

真つ青な空に浮かんだ白い雲夫が居るのよ私の秘密 横須賀市 建部智恵子

幼子の泣き声うれし耳鳴りに耳鼻科へ行きて思ひ切り聞く 八王子市 斎賀 勇

七十年使ってきた右腕がもうあかんわと夜半に泣きおろし 和歌山県 助野貴美子

吸ひ込まれそうなるツタンカーメンの瞳の奥にあるものがたり さいたま市 大塚 教子

栗木 京子選

定番の朱色極めてポインセチア舞めくものはみな淋しくて
福生市 二瓶 利明

【評】朱色と緑のコントラストが鮮やかなポインセチア。歳末の気分が高まる。植物の勢いに、作者は美しさだけでなく淋しさを覚えたのである。繊細な感受性の伝わる歌。

君が逝きわたし寂しくなったからほこつと歌が浮かんだりする 静岡市 藤田 淳美

【評】寂しさを絞り出すように歌が生まれるときもあるが、ほこつと歌が浮かぶときもあるだろう。君の死から少し歳月が過ぎたのかもしれない。やさしい語調が心に残る。

ボロ市に古布のコートを購入し綻び三つ四つ縫う愉しさよ 鴨川市 春木 敦子

【評】綻びを縫うひとときは古いコートとの対話の時間と言える。あまり綻びが多いと困るのだが、「三つ四つ」が効いている。

永遠の夢を見ていたハプスブルグ家いま美術館で庶民が観ている 筑紫野市 桂 仁徳

シドニーの天気伝ふる深夜便ねむれぬ同土屋座となりて 札幌市 丸ヶ崎結子

読み終えて水澄むような胸のうち歌集の扉静かに閉じる 向日市 阿部まりこ

俳句はね居合抜きだと言いつ友今日短歌にて入選果たす 大洲市 城戸 通宗

メール中に指がどこかに触れるのか画面が変わる意地悪スマホ 大東市 若槻 豊彦

松葉杖つきて電車に乗りきたる人が座ればわれも座りぬ 東京都 土井紘二郎

里山になめて採らんと分け入れればしじまを破る雉の高鳴き 新発田市 本田 政嗣

依 万智選

自分しかいないみたいに光るから名前を聞いた春の教室
東京都 石井 しい

【評】とても目立つ存在の子がいて、思わず名前を聞いてしまったという場面だろう。上の句が、その魅力と、いやおうなく惹かれてしまったことを伝える。「から」と相手のせいにした表現も、抗えない感じがしていい。

真夜中の明かりをつけた自販機がホットコーヒーに勧める つくば市 小林 浦波

【評】自分のために存在しているような自販機。そう感じてしまふ孤独よりも、自販機を主役にしたところが、この歌の温もりだ。

朝刊の棋譜をながめているときに駒が教えてくれる体調 東京都 富見井高志

【評】棋譜とは、囲碁や将棋の対局を記録したもの。勝負の流れが明確に分かる日と、そうでもない日と。下の句の表現に味がある。

「おはよう」は夢の中でのことらしい触れて二度目の「おはよう」を言う 東京都 水面

病室のきみが畑の心配す茄子もオクラも大きな音符 岐阜市 後藤 進

夕暮れに手を振る人のその先に立っているのも夕暮れの人 守口市 小杉なんぎん

早朝のひゃつこい水にしずんでひゃつこい豆腐を二丁買った 東京都 青木 公正

砂粒を数えるバイトあったなら私はきつとエーヌになれる 東京都 富尾 なつ

道場に少年は立つ睨む眼を小さな小さな湖にしめて 大和郡山市 本田 岳

ガンに勝つスープ作りて飲ませしもおいしかったと妻は逝きたり 四街道市 村山 勝彦

黒瀬 珂瀾選

お互いの芯は語らぬ飲み会の帰りの窓に結露はたまる
東村山市 すだちひな

【評】表面上はこやかにしゃべり合っている、心のお互い隠したまま。そういう場が多い。帰路の車窓を垂れるしずくのように、言い出せない心があふれそうになる。

ピータンを推しているのと言う君のネイルの色はグレーと黄色 仙台市 菊地 康子

【評】たまたま黄色とグレーの配色になったネイルを問われて、「ピータン推し」とジョークで答えたのだろう。ユーモアの「一瞬」。「祖母です」とわれを紹介する孫の「そぼ」と言ふ声いとあたたかし 熊本市 森山 昭子

【評】「おばあちゃん」ではなく「祖母」ときちんと言えるようになった。お孫さんの成長を実感した一瞬なのでしょう。大人びたその声に、様々な記憶が蘇るのでしょうね。

ばあちゃんばあちゃんは七十年も生きてるの樹のようだねと真顔の幼 京都市 根来美知代

「よう生きた」最後の言葉吐くように九十年を五文字で括る 宇部市 小林千恵子

久々に熊をわすれる夕餉の卓テレビは大谷山本づくし 新潟市 横間 征子

溢れだす差別排除の声の波に呑みこまれまいと腕き苦しむ 長野市 宮崎 邑

熱が出て小さくラジオつけたながら潮風のふく故郷のこと 札幌市 多米 淳

新しい売物件の幟立ち中古の家が呼吸はじめる 高崎市 清水 伸彦

嫌なことありましたのでこの辺で私は通過待ちいたします 東京都 岩本 朗